

高津区おはなしアーカイブ

●鳥海 正博（とりうみ まさひろ）
さん

昭和4年生まれ 88歳
川崎市高津区子母口在住



◆子どもの頃の思い出

私は東京生まれでね。兄弟5人の長男です。上に姉が2人、下に妹と弟がいました。子母口に來たのは戦争が激しくなった昭和19年10月のことです。両親と私たち兄弟姉妹、家族揃って越してきました。

父は以前、大田区久が原で商人をしていました。いろいろ扱うマーケットですね。当時は久が原に住居と仕事場がありました。

子どもの頃は、こま回しやメンコ、ベイゴマなどで遊びました。普通は丸いベイゴマなのですが、私が持っていたのは角ゴマで弾き出す力が強いのです。凧揚げもしま

した。凧はうちの店で売っていたし、けん玉でも遊びました。

着ていたのは洋服です。履物は靴、ズック靴でしたね。

両親が仕事で忙しくしていたので、子どもたちは自分で食事の支度をしました。主食は白米です。麦は入れずにね。戦時中は麦飯やさつまいも、じゃがいもも食べましたけれどね。うちの前が佃煮屋さんで、いろいろ売っていたので佃煮と、あとは漬物を食べましたね。

小学校は東京府立東調布第三小学校です。途中から国民学校になりました。家から学校までは歩いて15分でした。一学年60人ほどいて、男子組、女子組、そして男女組があったのを覚えています。

勉強も家の手伝いもありしなくて、学校から帰ってくるとランドセルを放り投げて遊びに行きました。下丸子から矢口までは田んぼが広がっていたので、蟬取りをしたり、裏の小川では網で雑魚がりをして、鮎やクチボソを釣ったりしました。

毎年10月12日になると池上本門寺で御会式があつて賑やかでね。縁日に行く日は朝からそわそわして、お小遣いを10銭もらって、薄荷パイプが5銭、焼きそばが1銭、なんて考えながら買って廻ったね。焼きそばは新聞紙の上に木の皮を敷いてその上に載せてくれました。懐かしいなあ。

◆子母口へ

中学校は鵜の木にある東京中学校です。久が原から山を越えて40分かけて通いました。剣道部に入って放課後は稽古に打ち込みました。寒稽古もしましたよ。朝7時からね。

父は年齢で戦争に行かなくても良かったけれど、姉がもし男だったらきっと戦争に行っていましたね。

私たち東京中学校の学生は下丸子にある三菱重工に勤労奉仕に行きました。フライス盤や旋盤を扱う仕事です。金属を削っていく厳しい仕事でした。ひと月過ぎたらすぐに任されましたよ。お昼は食堂でいただきました。重要な工場だったから、おかずも盛りも良かったですよ。

昭和19年、中学3年の時に子母口に越してきて、5年生まで行かずに4年で繰り上げ卒業させてもらい農業を手伝いました。

子母口には父が土地を一町三反、約四千坪ほど買ったので、うちで食べるものは専らそこで作りました。米や麦、さつまいも、じゃがいもなどです。さつまいもは今より腹持ちがよかったですね。

田畑の手伝いは、まず水の確保ですね。このあたりは矢上川水系で、日照りが続く年はポンプで用水をくみ上げるのです。番水といって、一番二番と番号を割り当て、当番になると水を引いてもらえるのです。

時には大水が出て水浸しになり、水が引くのを待つこともありましたね。台風が来

ると2日くらいで引くのですが、稲は水には強いですからね。稲についた泥は篠竹の竿で掃きました。田んぼにはエビガニ、ヒル、タニシなどがいました。鯉が泳いでいるのを見たこともあります。水が引いてくると深いところに逃げていきましたね。どじょうは、堀や田んぼにもいました。

◆終戦

小学校6年の時に大東亜戦争が始まり、中学4年で終戦です。空襲で子母口のお寺が2軒、民家が3軒焼けました。うちでは崖下に防空壕を3つ掘っておいて、第一と第二は人や貴重品、第三は芋の貯蔵庫にしていました。

B29が飛んで、筒状の焼夷弾が60発くらい入っていて、途中で雨のようにざあっと落ちてきました。中は油ですから田んぼが燃えて、麦わらの屋根に落ちれば焼夷弾一本で丸焼けでした。何回も防空壕に入りましたが、家が焼けなかったのは助かりました。

昭和20年8月15日は暑くて、近くの西が堰で泳いでいました。玉音放送があって戦争が終わったことを知り、まるで鉄兜をかぶされていたのを外されて、ぱあーと晴れたような気持ちになりました。良かったと思いました。統制されていたものから一気に自由になりましたからね。

◆当時の暮らし

買い物などは主に千年に行きました。「末長屋」といって、大きなよろずやさんがありました。何でもありましたから、たいいていのものは末長屋で間に合いました。魚は「魚信（うおのぶ）」で買いました。

あの頃、市場は千年、丸子、工業都市と呼ばれていた武蔵小杉にありました。丸子橋を渡って大森や東調布の市場に行くと、野菜が高く売れました。牛車のある家は3軒でした。武蔵小杉へ向かう途中、橘神社のあたりは坂なのでリアカーを後押ししてもらいました。

昭和30年に家内と見合い結婚しました。結婚までは新宿や日比谷の公園で2回、デートをしましたね。結婚してからは家の二階に住み、両親は一階で暮らしました。

◆祭り

戦後は青年団で素人芝居をしました。場所によって祭りの日にちが違いましたから、最初は野川、最後は井田というように、順番に廻っていくのです。あちこちの祭りに行くのは楽しくてね。夜中の12時頃に家に帰って、翌日は眠くて欠伸びながら仕事したものです。芝居は神社の秋祭りで上演しました。私は警察官の役を2回演じましたよ。ドーランなどはつけずにね。演目として人気なのはほとんど時代劇でした。「番場の忠太郎」などは、どこでもやっていま

したね。しばらくすると芝居師というプロの人たちが来てくれるようになりました。

大みそかは一晩中起きていて、元日に初詣に行き、2日になると友人と一緒に渋谷や自由が丘、横浜、川崎に遊びに行きました。正月映画が楽しみだったのです。時代物の「国定忠治」や「大久保彦左衛門」などが人気でね。役者さんも萬屋錦之助やエンタツ、アチャコは人気がありましたね。

「君の名は」もよかったね。女優では田中絹代や高峰秀子がいいね。

正月16日には「どんど焼き」の行事がありました。孟宗竹の先に繭玉のお餅を付けて焼いてね。昔は田んぼがあって、しめ縄や御祓いしてもらったけど、火災が怖い場所がないから今はやってないね。

◆子母口

町の行事として今は子供会や盆踊りが盛んだけど、自分の中では「道普請」と「堀さらい」が記憶に残っているね。「道普請」は、まだ道が舗装される前に、じゃり道やどろんこになったところを自分たちで直すものです。春と秋の2回、お彼岸にね。皆で町を守り土地を育てている感覚だったね。

子母口の家は昔から56軒ありました。ほとんどが農家です。今は畑が減って人も増えました。勤め人が増えましたね。富士見台団地は昭和30年に土地の買収が始まって、31年から入居しましたし、その頃から建売の一戸建ても増えました。家がち

らほら建ち始めて、あちこちで大工さんの
打つ金槌の音が響いていたのを覚えています。

ここは緑もたくさん残っていて自然に恵
まれているね。いたちの一種のハクビシン
もいましたね。「ねこいらず」をかけたら
いなくなりましたが。今も竹やぶには蛇や
蛙がいますよ。

何よりもこの町は派閥や争いがなくて、
本当に仲がいいですよ。皆が子母口を「わ
が郷土」として大事にしているからね。

(平成28年10月5日取材)